

親子で環境満喫バーチャルツアー 北海道の海岸漂着物を調べてみよう！（テキスト版）

小杉:「みなさん、こんにちは。西区環境まちづくり協議会の小杉です。今日は石狩市厚田区古潭海岸に来ています。とても暑いです。開催を予定していたバスツアーは残念ながら中止となってしまいましたが、今回、親子で環境満喫バーチャルツアーと題しまして、映像を見ながら、海岸を歩いた気分ビーチコーミングを体験していただこうと思います。この動画をご覧ください。環境問題のことですとか、身近な自然環境について一緒に考えていきましょう。先生をご紹介します。北海道博物館・学芸員の圓谷昂史さんです。よろしくお願いします。」

圓谷:「よろしくお願いします。」

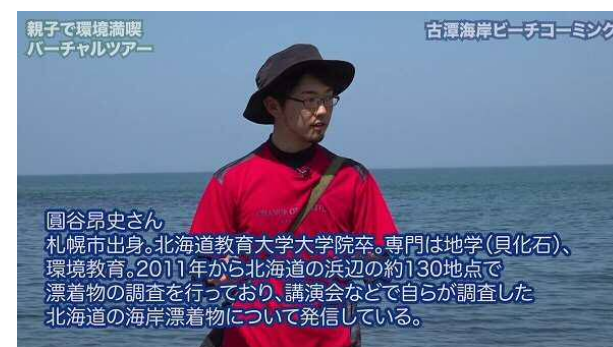
小杉:「圓谷さん、今回のバーチャルツアーではどんなことを皆さんに知っていただきたいですか？」

圓谷:「はい、今回バーチャルツアーで歩く、海岸と言う場所なんですけれども、私たちが今、立っている陸、そして後ろにある海、その境界に位置する場所になっています。陸に由来するものと、海に由来するもの、いろんなものが流れ着くんですね。その流れ着いたものを「海岸漂着物」というふうに言うんですけれども、「海岸漂着物」と今言ってしまうと、恐らくペットボトルですとか、ビニール袋なんかの「プラスチックゴミ」、いわゆる「海洋ゴミ」と言われるものを想像されるかなと思います。ただ、海岸と言うのはもともと、例えば貝殻ですとか、流木なんかという、いわゆる自然物がたくさんある場所でもあるんですね。今回、このバーチャルツアーで、この海岸を歩いていく中で、たとえばプラスチックゴミ問題に注目してみたり、あとはそういった自然物に関しても注目してみることで、この身近な古潭海岸という場所の環境を知ってもらえればなという風に思います。」

小杉:「ありがとうございます。では、実際に海岸を歩きながら、自然環境について考えてみましょう。では、よろしくお願いします。」

圓谷:「お願いします。」

小杉:「それでは厚田区の古潭海岸から、親子で環境満喫バーチャルツアースタートです。行ってきます。」



テロップ(まずは人工物をさがしてみよう)

小杉:(アナゴ捕り器を拾い上げる)「なんかこれも。」

圓谷:「あ、これ漁具ですね。」

小杉:「漁具？」

圓谷:「はい。よく言われるのがアナゴとか魚を捕るときのカエシで、こっちにその魚が入る部分がついていて、こっから入ると、魚はもう中から出られない。そういう風に使われる漁具とされています。」

小杉:「へえ、こんなものもあるんだ。」

圓谷:「これも日本製のかな？」

小杉:「あ、ペットボトル。」

圓谷:「この時期結構日本製多いんですよ。」

小杉:「そうなんですね。」

圓谷:「はい。秋とかになると海流で運ばれてきたのが寄るんですけど、だいたいこの時期って、日本製のものが多くて。」

圓谷:「お、なんか大きいものが。」

小杉:「なんかすごい大きいですね。」

圓谷:「目立ちますね。」

小杉:「なんですかこれは、目立ちますね。メイドインコリアって書いてありますね。」

圓谷:「そうですね、ハングルの文字が付いていますね。H₂O₂なので『過酸化水素水』っていわゆる、薬品の一種が入っていたやつで、昔たくさん流れ着いて問題になっていたこともあったんですけど、今もこういったタンクだけが流れ着いたり、あと、フタがついていて、まだ中に海水なのか、その本当の中身なのかわかんないんですけど入っているのがあるので、今は中身が入っていないのがわかるので触っているんですけど、普通だったら触らない方が良いです。」



小杉:「そうなんです。危険なもの。」

圓谷:「これも韓国製品ですね。」

小杉:「プラスチックゴミと言えば、レジ袋が多いという風によく聞くんですけども、レジ袋が見当たらないかなあと思ったんですけども、ここにはあんまり落ちていないものなのではないでしょうか？」

圓谷:「はい、実はですね、恐らくたくさんあるはずなんです。ただレジ袋は薄いので目につきにくい。どこにあるかと言うと、多分こういった流木とか海藻とかの隙間に細かくなって入っていることが結構多い印象がありますね。たしかに海岸にいてゴミ袋が少ないと、ゴミ袋は無いんだって思っちゃおうと思うんですね。でも、実は目に見えないだけで、結構あると思っていただいた方が良くと思います。」

小杉:「じゃあやっぱりレジ袋をもらうのではなくて、マイバッグを持って買い物に行くというのは大事なことなんですね。」

圓谷:「そうですね。」

小杉:「ありがとうございます。」

圓谷:「北海道ってこうやって漂着するものの多くが流木っていう風に調査結果があって。ただ、もちろん流木だけじゃなくて、この流木の隙間とか間に、いろんなものが溜まっていたりするんですよ。」

小杉:「そうですね。たしかにゴミも。」

圓谷:「じゃあこの真ん中入ってみましょうか。」

小杉:「はい。なんかいろんなものが…。なんかすごい、ぼろぼろの靴もあるし。目についたのはこの辺なんですけど。」

圓谷:「はい。」

小杉:「へーこれは？」

圓谷:「これはたぶん漁具ですね。ブイじゃないですかね。」



小杉:「重いのかと思ったら、プラスチック？」

圓谷:「これ実は発泡スチロールなんですよ。ちょっと触っただけでもポロポロきちゃうので。こういうのがやっばりバラバラになって、こういう砂の中とかに入りこんじったり、陸の方の中に入り込んで土の中に入ったりとか。」

小杉:「そうなんです。これも漁具とかの割れたものですか？」

圓谷:「そうですね、大きいブイですね。」

小杉:「ブイ。」

圓谷:「こんな風に割れちゃって。これもたぶん手でパキパキと折れるぐらいの柔らかさになっちゃっていますね。」

小杉:「すごい。」

圓谷:「ペットボトルもあるし、さっき見た発泡スチロールとか、缶も、瓶も、いろんなものがここにありますが、これは、ちょっと削れて見えなくなっていますが、多分日本製じゃないやつですね。」(青いプラスチック製品を持ち上げる)

小杉:「へえ。」

圓谷:「これなんか書いてあるかな。これもたぶんハンゲルが彫ってありますね。」

小杉:「あ、本当だ。」

圓谷:「ちょっとどういう風に使うのかいまいちわからないですけど。」

小杉:「(これ以上バケツには)入らないですね。」

圓谷:「ちょっとこれは今は置いていきましょう。」

圓谷:「なんかあるかな。」(ペットボトルを持ち上げる)

小杉:「あ、それもなんか日本じゃなさそう。」

圓谷:「そうですね。あとでこれも調べてみましょう。入れていきましょうか。」



小杉:「はい。」

圓谷:「で、こうやってみるとラベルもついてないし。由来もわからないようなものがいっぱいあるっていうのが。」

小杉:「本当に海で全部ラベルが剥がれて、ここに流れて着いているっていうような。」

圓谷:「そうですね、かもしれないですね。そうなると、ここに来なかったラベルたちはきっとまだ海の中にあたり、バラバラになってもう、この砂の中に入っちゃっているかもしれないですね。」

圓谷:「本当だったら子どもたちがここに来て、普通に海岸遊びとかっていうのが出来ていたものが、やっぱりこういう風に、人工物、危ないものとかがあると、安心して遊べなくなっちゃうので。」

圓谷:「はい、古潭海岸、端から端まで歩いてきましたが、結構いろいろ拾えましたね。」

小杉:「拾えました。さっき一つバケツがあって、更に二つ目なので、いろいろなものがあって、どんなものかも一回あとで詳しく見たいなって思いました。」

圓谷:「そうですね。じゃあ、いま反対側の端っこまで来たので、今からじゃあ戻ってみたいと思います。」

小杉:「はい。」

テロップ(後半は、自然物をさがしてみよう)

圓谷:「はい、じゃあ今から戻っていくんですけど、行きは人工物、ゴミの方を見てきたので、帰りは自然物をちょっと見ていこうかなと思うんですけど。」

小杉:「あ、なんかこの辺いっぱい。」

圓谷:「そうですね。この辺、またちょっと違うものがいっぱい落ちてますね。」

小杉:「透明なのとか、白いのがあります。」

圓谷:「そうですね。」

小杉:「見てもいいですか？」



圓谷:「どうぞどうぞ。」

小杉:「うわあかわいい。すごーい。あと、この真っ白なのと、透明なのはちょっと違うんですね。」

圓谷:「そうですね、はい。これもじゃあ後で正体を調べてみましょう。」

小杉:「はい。」

テロップ①(帰り道でどんなものを拾ったかは、後ほどお楽しみに！)

テロップ②(では、まず、拾った人工物を見てみよう)

圓谷:「はい、じゃあ戻ってきましたね。」

小杉:「はい。」

圓谷:「なんか結構取れましたけど。」

小杉:「たくさんありましたー。」

圓谷:「じゃあちょっと1回どんなものがあるか広げて見てみましょうか。」

小杉:「はい。」

圓谷:「まずはペットボトルですね。」

小杉:「ペットボトル何個か取りました。」

圓谷:「これも漁具ですね。ウキですね。スプレー缶？」

小杉:「スプレー缶。」

圓谷:「あ、ボンベですね。」

小杉:「ボンベ。」

圓谷:「カセットボンベの缶。それは、ビンですね。」

小杉:「ビンもあります。」

圓谷:「靴が…。」

小杉:「靴が…靴は結構ありましたよね。」

圓谷:「ありましたね。」



小杉:「拾えてないけど。」

圓谷:「園芸用のポットであったり、割れた小さいプラスチック類であったり。これ使えるかな? グーグルペイ。」

小杉:「グーグルペイ。」

圓谷:「あ、それは、最初に見つけたおもちゃ達。」

小杉:「おもちゃ。」

圓谷:「タバコの吸い殻ですね。」

小杉:「吸い殻。」

圓谷:「これなんかあれですね、日本っぽくないですね。」

小杉:「ほんとだ。韓国語、ハングルが書いてありそうな。ペットボトルのラベルですかね。拾えなかったのもいっぱいあったので、拾っただけでもこんなにいるんな種類があるっていうのはすごく驚きました。」

圓谷:「そうですね。ほとんどが、私たちが普段使っているような日用品。」

小杉:「そうですね。」

圓谷:「もうここからたぶん半分こっちは、ほとんど家庭でもみるようなものですね。」

小杉:「そうですね、ほんとですね。ちょっとショックを受けました。」

圓谷:「そうですね。やっぱりこういうのって海でポイ捨てるっていうのもあるかもしれないんですけど、ただその多くは、川とか陸からそのまま流れてきて、海に入って、またこういう海岸に流れ着くっていうようなことが多いので、例えば、道端に落ちているようなペットボトルを拾うだけで、もしかすると海岸を汚すことが少なくなるかもしれないですね。」

小杉:「そういうことだったら私たちもできそうですね。」

圓谷:「そうですね。で、あとやっぱり、ラベルが剥がれちゃったりすると、もうこれがどこから来たものなのかわからなくなってしまいますしね。」

小杉:「そうですね。」

圓谷:「で、あとラベルとかはですね、どこから来たっていうよりは、どこの国の事業者が作ったのかっていうのがバーコードとかを見るとより正確にわかって。例えばですけど、このバーコードの最初の3桁くらい、2



~3桁を調べるとわかるんですよ。例えば、こ

れだと「454」って書いてあるんですけど、これ北海道の漂着物で見つかる主な数字ということで挙げて
いるんですけど、「45」というのが実は日本製、日本の事業者が作ったよというやつなんですよ。」

小杉:「へえ。」

圓谷:「この中だと例えば、どんなのありますか。それは？」

小杉:「これは 49…」

圓谷:「はい、45 と 49 は日本なので、それは、日本の事業者が作ったということですね。」

小杉:「これはちょっとバーコードが取れちゃってますね。」

圓谷:「そうですね、見えませんが、それはどうですかね？」

小杉:「あ、こっちはある。69。」

圓谷:「69 というと…、そうですね、697 というのが入っていないので、ちょっとどこか分からないですね。」

(あとで確認したところ中国製品のようにでした。)

圓谷:「あと、このへんは、さっきも見えていたようにハンゲルの文字が書いてあったので、韓国で、たぶん
使われているだろうというものがあったり、日本のものだけじゃなくて、やっぱり海は世界中で繋がって
いるので、いろんなところから、特にその日本近海の国からやってきてしまっているっていうものもやっ
ぱりたくさんありますよね。ですので、ある意味では、私たちが使っているものが、もしかすると違う海岸
に行って、というのがありますよね。」

小杉:「そうですね。」

圓谷:「前に、北海道の北の方にあるサハリンに行ったときにも、やはり日本の製品というのが結構流れ着い
てはいたんです。ですので、やっぱり自分たちの住んでいるところから流れ出てってしまって、他の海岸
を汚しているっていうことですね。誰もがやっぱり加害者であり、だれもがやっぱり被害者になってしまう
この海洋ゴミという問題がここでもよくわかるかなという感じですね。」



バーコードでしらべてみよう！

商品についているバーコードをしらべると、
どの国の事業者がつくったものかわかります。 【北海道の漂着物で見つかる主な数字】

*しらべ方	
450~459	日本
490~499	ロシア連邦
460~469	ロシア連邦
471	台湾
489	香港
690~699	中華人民共和国
880	韓国



バーコードでしらべてみよう！

商品についているバーコードをしらべると、
どの国の事業者がつくったものかわかります。 【北海道の漂着物で見つかる主な数字】

あとで確認したところ
中国製品のようにでした

*しらべ方	
450~459	日本
490~499	ロシア連邦
460~469	ロシア連邦
471	台湾
489	香港
690~699	中華人民共和国
880	韓国



サハリンで見つけた越境漂着物の一部
色々な製品がありました

テロップ(どこの海岸にも海洋ゴミが落ちているの?)

小杉:「古潭海岸、今回、やっぱり汚いなと思ったんですけど、どこの海岸も結構同じようにゴミは流れ着いちゃってるってような感じなんじゃないかな。」

圓谷:「はい、あの本当にゴミのない海岸はたぶんもう世界中どこ探してもないだろうっていうぐらい北極でも南極でも見つかったりするので、どこの海岸でも起こりうることですね。古潭海岸だけじゃないですね。」

小杉:「そうなんですね。」

テロップ(拾った自然物を見てみよう!)

圓谷:「はい、じゃあ続いて、帰りに拾ってきた自然物。貝とかいろんなものをちょっと見ていこうと思います。ちょっと種類ごとに、同じような感じの仲間ごとに並べてみましょうか。」

小杉:「はい。」

圓谷:「これはあれですかね、カキですね。」

小杉:「カキ。これは、ホタテですかね。」

圓谷:「なんかホタテっぽいですね。」

小杉:「っぽいですね。これも食べ物に、パエリアに出てきそうな。」

圓谷:「ははは。同じく黒っぽいこの三角形をしている貝ですね。このへんは結構この海岸いっぱい落ちてましたね。」

小杉:「これなんか可愛いですね、紫っぽいのが。」

圓谷:「これはアサリですね。」

小杉:「これはアサリ。」

圓谷:「これもまたアサリ系。」

小杉:「アサリ系。これは？」

圓谷:「それはですね、結構この海岸で結構特徴的な貝ですね。レイシガイっていう。」

小杉:「レイシガイ。」

圓谷:「また同じのこつちもありましたね。」

小杉:「はい。なんかぽこぽこして可愛いですね。」

圓谷:「そうですね。一見可愛く見えるんですけど、元々この海岸にはたぶん住んでなかっただろうと言われるような貝でして、元々はもうちょっと南の海に住んでいたんですけど、2000年…まあ2010年ぐらいとかからこの海岸で見つかるようになってきていて、温かくなってきたからなのか、何かいろんな要素があるのか分からないんですけど、こういった、今まで見られなかったような貝っていうのが見られるようになってきたりしていますね。」

小杉:「はあ。」

圓谷:「黒っぽい巻貝も。」

小杉:「この辺、巻貝。あ、これも巻貝？」

圓谷:「そうですね。これも巻貝、それも巻貝ですね。」

小杉:「巻いてあるのが巻貝。」

圓谷:「そうですね。今、下にあるのがいわゆる二枚貝。」

小杉:「二枚貝。」

圓谷:「はい、アサリとかカキとかホタテとかの仲間ですね。この上の方は巻貝なので、ツブとかの仲間になりますね。」

圓谷:「あと石も結構入っていますね。」

小杉:「はい。まず白っぽい石が、このへんちょっと可愛いなと思ってさっき拾っちゃったんですけど。」

圓谷:「いいですね。」

小杉:「こういうのと、あとなんかちょっと透明な。」

圓谷:「これはあれですね、メノウと言われるやつですね。」

小杉:「メノウ。ちょっと聞いたことがあるような。」



圓谷:「ちょうどここに縞々が入っているんですけど、よくあのお土産屋さんとかで薄いコースターとかになっているあの赤とか緑とかの色がついているようなものとはほぼ同じ成分でできていると思います。」

小杉:「すごい。」

圓谷:「この海岸結構そういったメノウとか鉱物系も拾えたりするんですよ。途中であの黒っぽいところ、砂あったと思うんですけど、あそこはたぶん砂鉄とかが集まっているような場所ですね。」

小杉:「はい。」(砂鉄を持ち上げる。)

圓谷:「あ、そうですね。特に黒っぽいところ。」

小杉:「砂鉄。」

圓谷:「あと緑色とか茶色っぽいのも入っていますね。」

小杉:「そうですね。」

圓谷:「これ実は、石とか鉱物じゃなくて、ビーチグラス、シーグラスって言ったりもするんですけど、ガラスが割れて、角が取れて、すりガラスのようにになっているんですけど。浜辺でよく見つかる。この白っぽいやつこの大きい方はたぶんシーグラスの方の、元々白いガラスがこういうふうになっているって感じですね。」

小杉:「こういうのも可愛いですね。」

圓谷:「はい。これだけ歩くと歩いて、少しの時間ですけど歩いて拾ってきても、結構いろんな種類があって、見慣れた貝もあれば、初めて見るのものもあるし。」

小杉:「初めて見るものもあります。」

圓谷:「貝もいっぱい種類があるので、種類を図鑑とかで調べてあげたりすると、例えば、さっき、この紹介したレイシガイみたいにこれまでいなかった種類とかがいたり、見つかったりっていうのが新しい発見っていうのが分かたりしますね。」

小杉:「そういう楽しみ方もできるんですね。」

圓谷:「そうですね。こういう海岸を歩いてゴミだけじゃなくてこういった自然物にも注目すると、いろんなことが分かります。」



小杉:「そうですね。やっぱりゴミを見るとちょっと気持ちが落ち込んでしまうんですけども、こういうのを見るとやっぱり、こういう海をすごく守っていきたいというか、すごくそういう気持ちになりました。」

圓谷:「はい。」

小杉:「圓谷さん、今日は古潭海岸を歩いてみてたくさん発見がありました。」

圓谷:「はい。」

小杉:「プラスチックも本当に大きなものも落ちていて、今日は少し拾えましたけど、こういうふうにとんどん綺麗になったらいいなとすごく思いました。」

圓谷:「はいそうですね。まあ全部拾えれば、確かに見た目が綺麗に見えると思うんですけど、実はですね、プラスチックにはもうひとつ大きな問題があって。先ほど、この足元の砂を、このビンの中に入れて、水を入れてきたんですけど、これだけ見ると何みなさそうなんですけど、ちょっと振ってみてもらっていいですか。」

小杉:「こういう感じで？」

圓谷:「そうですね、ひっくり返して。するとどうですかね。」

小杉:「あ、いろんな色のついた小さいのが浮かんでいます。」

圓谷:「実はですね、さっき見ていただいた、拾ってきたプラスチックが破片になってしまった、いわゆるマイクロプラスチックと呼ばれるものなんですよね。実は問題というのが、今こういうふうに見える大きいサイズのものもあるんですけど、今、私たちが立っているこの足元の砂の中には、たくさん破片になってしまったものとかも入っているんですよね。なので、そういった部分の課題もあるんですけど、本当に、先ほど小杉さんがおっしゃったように、全部拾えれば、確かに綺麗になるので、是非そういった活動もしていけるといいですね。」

小杉:「はい。」

テロップ(圓谷先生からみなさんへ)



小杉:「それでは最後に圓谷さんから今回のビーチコーミング活動を通じて皆さんに呼び掛けたいことなどありましたらお願いします。」

圓谷:「はい。ビーチコーミングというのは、もともとは海岸に流れ着いているものを拾って、集めて、そしてコレクションにしたり、アート作品を作ったりする趣味のことを指します。今だと、今日見ていただいたようにゴミがいっぱいあって、すごく汚いなっていう風に思ってしまうかもしれないんですけども、日々の活動や取組み、私たちが、例えば通学路学校に行くときとか仕事に行くときとかに落ちているものを一つ拾うことによっても海岸が少しずつ綺麗になっていったり、保たれたりするということになるので、私たちができることって海岸に来てゴミを拾うだけではなくて、身近な中でも活動できることがたくさんあるので、是非そういった取組みも通して、綺麗な海岸に来て、そしてビーチコーミングですね。今回見ていただいた貝ですとかメノウとかの自然物、例えば、この辺りだと、時期によっては琥珀という綺麗なものが拾えたりとか、南の方からやってくるヤシの実とか、季節によってはアオイガイというちょっと不思議な、綺麗なものが拾えたりするんですよ。そういった海辺での楽しさも感じていただきながら、今後の日々の生活の中で海を守る活動をしていっていただけると、とてもいいかなというふうに思います。」

小杉:「ありがとうございます。海洋ゴミの問題のことや自然環境のことなど私たちの暮らしの中から、できることを一つずつ取り組んでいけたらいいなと思いました。それでは圓谷さん、今日はありがとうございました。」

圓谷:「ありがとうございました。」

小杉:「みなさん、ご覧いただきまして、ありがとうございました。それではさようなら。」

やまべエ: 美しい海を守るため、ボクたちにできることから始めよう!

